

キリストは死とハデス^{よみ}[陰府]のかぎを持っている

聖書：啓 1:17-18, 10:7, 12:11, 15:1, 8, 使徒 2:24, ピリピ 3:10-11

- I. 「わたしは最初の者、また最後の者、また生きている者である」——啓 1:17 後半 -18 前半：
- A. キリストが最初の者、また最後の者であることは、キリストが開始したことを完成することを暗示します。
 - B. 主イエスは最初の者であるだけでなく初めでもあり、最後の者であるだけでなく終わりでもあります——21:6, 22:13：
 - 1. 「最初の者」は、彼に先立つ者がいないことを示します。「最後の者」は、彼に続く者がいないことを示します。
 - 2. 「初め」は、彼が万物の起源であることを示します。「終わり」は、彼が万物の終結であることを示します。
 - 3. ここで示しているのは、主イエスの前にも後にも何もないというだけでなく、彼がなければ起源も終結もないということです。
 - C. キリストは最初の者また最後の者であるだけでなく、また初めと終わりでもあります。このことは、彼が召会生活を開始するなら、確かにそれを完成することをわたしたちに保証します——参照、Ⅱテモテ 4:5：
 - 1. 主イエスは決してご自身の働きを未完成のままにしません——啓 10:7, 15:1, 8。
 - 2. すべての地方召会は、主イエスが初めであり、終わりであることを信じなければなりません。
 - 3. 彼は、ご自身が彼の回復において開始した事を完成します。
 - D. 諸召会のただ中を歩いているキリスト、すなわち諸召会のかしらであり、諸召会が属している方は、生きている者です。このゆえに、諸召会もからだの表現として、生きていて、新鮮で、強くあるべきです——2:1。
- II. 「わたしは死んだが、見よ、永遠にわたって生きている」——啓 1:18 前半：
- A. 主は死の苦しみを受けましたが、再び生きました——2:8。
 - B. キリストは死の中へと入りましたが、死は彼を捕らえておくことはできませんでした(使徒 2:24)。なぜなら、彼は復活であるからです(ヨハネ 11:25)。
 - C. 復活は主の日々を長くすることです。彼はご自身の復活において永遠にわたって存在します：
 - 1. イエス・キリストは今日、生きている者、復活の中にいる者です。
 - 2. キリストは命を分与するために、生きている者でなければなりません。
 - D. キリストが生きている者であることの重要性は、彼が永遠に生きており、わたしたちの中に生きているということです：
 - 1. 彼は、わたしたちがあらゆる種類の死から離れ、そして立ち上がって生ける召会となることを願っています。
 - 2. わたしたちは生きていればいるほど、ますます生けるイエスの証しとなります——啓 12:11。
- III. 「この霊の中で、彼[キリスト]は獄にいる霊どもの所へ行って、宣言されました」——Ⅰペテロ 3:19：
- A. この「霊ども」は、ハデス[陰府]に留置されている、体のない死人の霊ではなく、ノアの時代に不従順によって墮落し、暗黒の穴に監禁されて、大いなる裁きの日を待っている

る天使たちのことを指しています(天使たちは霊どもです——ヘブル 1:14) ——Ⅱペテロ 2:4-5. ユダ 6 節。

B. キリストは、肉体における死の後、彼の神性としての生ける霊の中でアビスに行って、これら反逆の天使たちに神の勝利を宣言しました。すなわち、神は、キリストにおいて肉体と成ったことと肉体におけるキリストの死を通して、神聖な計画を損なうサタンの企てに対して勝利を得ました。

C. 「獄」(Ⅰペテロ 3:19)は、タルタロス、深くて暗黒の穴を指しています。そこに、墮落した天使たちがとどめられています。

IV. 「わたしは見た。一つの星が天から地に落ちてきて、これにアビスの穴のかぎが与えられた」——啓 9:1-2. 11:7. 17:8. 20:1, 3:

A. 啓示録第 9 章 1 節の星はサタンを指しています。サタンは天から地に投げ落とされます:

1. 天使たちは、星にたとえられています——ヨブ 38:7. 啓 12:4。

2. サタンは天使長として、明けの明星でした——イザヤ 14:12。

B. 「『だれがアビスに下るであろうか?』……』。それは、キリストを死人の中から引き上げることです」——ローマ 10:7:

1. ギリシャ語で「アビス(abyss)」と訳されている言葉は、「アピソス(abyssos)」です。

2. この言葉はルカ第 8 章 31 節でも使われており、悪鬼どものすみかを指しています——ルカ 8:27, 33, 35, 38。

3. それはまた啓示録第 9 章 1 節から 2 節、11 節にも出て来て、「いなご」(彼らの王はアポルオンです)が出て来る場所を示しています。

4. 啓示録第 11 章 7 節と第 17 章 8 節は、獣、すなわち反キリストが上って来る場所を表徴します。

5. 啓示録第 20 章 1 節と 3 節は、千年期の間にサタンが投げ込まれ、閉じ込められる場所を明確に述べています。

6. ローマ第 10 章 7 節の「アビス」は、キリストが彼の死後、復活の前に訪れた所を指しています。その場所は、使徒第 2 章 24 節と 27 節によれば、ハデス[陰府]です。なぜなら、使徒第 2 章 24 節と 27 節は、キリストが彼の死後、ハデス[陰府]へと行き、その場所から復活の中で起き上がったことを啓示しているからです。

7. 聖書の用法によれば、「アビス」という言葉は、いつも死の領域とサタンの暗やみの力の領域を指しており、それは地のさらに低い所であって(エペソ 4:9)、そこへキリストは彼の死後、下って行き、それを征服して、彼の復活の中でそこから昇りました。

V. 啓示録第 1 章 18 節後半で主イエスは、「わたしは……死とハデス[陰府]のかぎを持っている」と言っています:

A. 人の墮落と罪のゆえに、死が入って来ました。そして死は今も地上で働いて、すべての罪人を集め、ハデス[陰府]にもたらしています。ハデス[陰府]は死人がとどめられている場所です。

B. しかしながら、召会生活において、わたしたちはもはや死とハデス[陰府]の支配の下にいません——ピリピ 3:10-11。

C. キリストは十字架上で死を廃棄し、復活においてハデス[陰府]に打ち勝ちました:

1. 死は全力を尽くしてキリストをとどめておこうとしましたが、そうする力はありませんでした——使徒 2:24。

2. キリストは神と復活の両方であり(ヨハネ 1:1. 11:25)、不朽の命を所有しています(ヘブル 7:16)。

3. 彼はそのような永遠にわたって生きていますので、死は彼を捕らえることはできません。
 4. キリストはご自身を死に渡しましたが、死は彼を捕まえるすべがありませんでした。それどころか、死は彼によって打ち破られ、彼は死から復活しました。
 5. ですから、キリストにおいて、死にはとげがなく、ハデス[陰府]には力がありません。
- D. キリストは召会の中におられる方であり、死とハデス[陰府]のかぎを持つ方であるので、死とハデス[陰府]はわたしたちに対して何の力も持つべきではありません。
- E. 召会生活の中で、死とハデス[陰府]のかぎは主の御手の中にあります。
- F. わたしたちが死を対処することは不可能です：
1. わたしたちには死を取り扱う能力は全くありません。
 2. 死が入り込むときはいつでも、多くの人はそれによって打ち破られます。
- G. わたしたちは主イエスにわたしたちの間で動き行動する立場、機会、自由な道を与えるなら、死とハデス[陰府]はいずれも彼の支配の下に置かれます——マタイ 16:18. 啓 20:14：
1. 主イエスが召会の中で立場を持っていないとき、死が直ちに優勢になり、ハデス[陰府]は力強くなって、死んだ者たちを閉じ込めます。
 2. キリストが死とハデス[陰府]のかぎ、権威を持っているのを、わたしたちが見ることは極めて重要です——ヨハネ 5:27. 17:2. 啓 12:10。
 3. 死は彼に服従し、ハデス[陰府]は彼の支配の下にあります。
- H. キリストが死とハデス[陰府]のかぎを持っているゆえに、わたしたちは主を賛美すべきです——啓 1:18. ヘブル 13:15. I ペテロ 1:7. 啓 19:5-6。